

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:平成 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動を分けている。	人数が多いと感じる時には庭あそびに出たりと
	2	職員の配置数は適切である	○		職員の立ち位置。	職員が少ない時には安全にすごせる活動を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		気を付けている。	部屋の中の段差は危険。すべり止めをつけている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		午前と午後で申し送りを行っている。続けていく。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		内容は職員全体に伝え、共有し更なる向上に向けていく。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○	会社のホームページにて結果を公表している。	おたよりにもホームページに評価の結果を公表しているということを書いて周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修にはなるべく参加するようにしている。	自発的にどんな研修があるかを調べ参加することも視野に入れたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者の方と面談を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		会社側としてマニュアル化していく必要があるのか。事務所独自のアセスメントツールを作成・活用していく方法もあると思う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		アイデアを出し合い、相談しながら行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		順番に決めている。	同じ活動にならないよう気をつけてはいるが、様々な活動を取り入れていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は近隣、休日は遠方などの活動を取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動終了後、集団活動を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日2回申し送りをを行い、プリントを配分している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		大きな出来事は必ず、小さな出来事は翌日としている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の送りとともに個別支援記録に記載している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		問題のある子は随時、話し合いをしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			ガイドラインの理解を深めていきたい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:平成 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が必ず参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		トラブル時は直接電話をかけている。送迎時に必ず聞くようにし、プリントをいただくようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		必要な機関から連絡をもらえるよう働きかけている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前の関わりのある場所からは電話や見学などをしていただいている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			卒業生はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			両センターの場所が分からないので、今後調べていく必要性を感じている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			今後、交流・活動する機会を作っていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			協議会について調べ、参加を検討していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳を活用し日々、連絡をとっている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			専門性のあるペアレントトレーニングは行えていないため、今後力をつけていく必要がある。(研修など)
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時の説明とともに随時、変更がある時はプリントを配布している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			すぐに対応している！
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			年3回保護者会を開催し、保護者間の共有を深めてもらっている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			万が一苦情があった際には迅速に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月おたよりを発行し、支援活動を記載している。
	35	個人情報に十分注意している	○			キャビネットに鍵をかけ、不用意に持ち出しをしないようにしている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:平成 2年 3月 9日

事業所名 縁berry

	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳を活用するとともに、送迎時に情報を共有している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現在は行えていない。 今後展開出来るよう方法を考えていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		視界に入るところに貼っている。(プレイルーム、玄関、事務室)	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災、防犯訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		積極的に研修に行かせていただいている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		安全面に配慮している。	記録にも月ごとにまとめてファイリングしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師の指示書はもらっていない。 保護者の方よりアセスメントにて把握を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングして、いつでも確認できるようにしている。	